

(社)日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第73回 レベル1PRA分科会 議事録

1. 日時 第73回：2016年12月19日（月）13:30～17:00

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 第4会議室

3. 出席者

（出席委員）高田主査，桐本副主査，橋本幹事，佐藤，岡野，石田，岩谷，喜多，小谷，
大滝（日高代理），黒岩，織田（谷口代理），小森（13名）

（常時参加者）濱口，福井，野村，池田，友澤（5名）

（敬称略）

4. 配布資料

P4SC-73-1 第72回レベル1PRA分科会議事録（案）

P4SC-73-2 人事について

P4SC-73-3 専門部会依頼事項

P4SC-73-4-1 停止時PRA標準改定案

P4SC-73-4-2 停止時PRA標準改定に係るコメントへの対応

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員13名が出席しており，分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また，配布された資料が確認された。

(2) 第72回議事録の確認

資料P4SC-73-1を用いて第72回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし，特になければそのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料P4SC-73-2により菅原委員（関西電力）の退任報告があり，新たに田中委員候補（関西電力）の選任が提案された。審議の結果，田中委員の選任が了承された。

(4) リスク専門部会等からの依頼事項について

資料P4SC-73-3により，リスク専門部会から検討依頼があった事項の報告があった。標準

策定5ヵ年計画と標準の概要（英語版）について、審議内容を反映して専門部会まで回答することとなった。

- ・5ヵ年計画では、標準の階層化・性能規定化において、今後の専門部会の意向と共に、当分科会所掌の3標準の位置付けなども検討していく。また、毎年実施の講習会内容については、今年度講習会の状況によりパラメータ推定標準の扱いなどを検討とする。
- ・標準の概要（英語版）では、改定したパラメータ推定標準分を最新版に更新し、関連する対外発表の状況について適宜反映することを検討し、次回分科会で確認する。

(5) 停止時 PRA 標準改定案の読合せ

資料 P4SC-73-4-1, P4SC-73-4-2 を用いて、停止時 PRA 標準改定案の読み合せ検討を行った。前回分科会でのコメント対応と附属書検討について報告があり、次のコメントがあった。

- ・中点「・」は、and/or の意味での名詞の並列表記でを使用することを原則とし、名詞以外でも表現上必要となる場合には使用してよいものとする。中点を書き換える場合には「及び／又は」を原則とする。これらの条件から外れる箇所については修文する。
- ・箇条 12.3 のただし書き第2文の出だし「その場合」が指すものを明確にする。
- ・附属書 J の May-Witt の式におけるサフィックスは「0」か「0」か確認する。また、追加したなお書きの要否を再確認し、必要であれば記載する要件を具体化する。
- ・附属書 K の表 K.1 で「ECCS 又は MUWC」で一文となっているので他と合わせた書式とする。また、他の例では FP 注水が記載されているため追記する。
- ・附属書 K の表 K.1 で「MUWC, FP 等」を「補給水系 (MUWC, FP 等)」と記載できないか。
- ・附属書 K の表 K.1 の安全機能に反応度制御を追加し、評価では除外されていることが判るよう備考する。
- ・附属書 L の L.1b) で「作動する緩和設備又は緩和操作の順番に沿って」を判り易くする。
- ・附属書 M, N に関して、附属書 N の FT 例が附属書 M の ET 例のどのヘディングに対応するか、附属書 M 側の図 M.1 に注記する。

また、改定案の解説に関して、改定の経緯を記載する方向となっていることから、まえがきの内容と合わせて記載案を検討し、回目の解説読合せと共に審議することとなった。

(6) スケジュール

次回分科会は年明け1月25日PMの予定。また、次々回分科会は2月10日PMを候補とし、次々回には停止時 PRA 標準改定案の本報告可否を採決する予定。

今年度の講習会は、改定パラメータ推定標準と L1PRA 標準を対象に、東京・新橋にて2月1日PMから翌2日終日の1日半で開催し、講習用資料は次回分科会で確認する。

以上